|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 授業科目名 | 英語科教育法Ⅰ | 教員名 | 石濵　博之 |
| Eメールアドレス | hishihama@edu.miyazaki-mic.ac.jp |
| 授業形態 | 講義 | オフィスアワー | ・授業で示す。・メールでも対応します。 |
| 科目番号 | EDU307－1 | 担当形態 | 単独 |
| 単位数 | 2単位 | 配当年次 | 3・4年前期 |
|  | 卒業要件 |  選択 |
| 科目 | 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　英語） |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。） |
| 一般目標 | 学習指導要領、中学校、高等学校外国語（英語）についての理解をすると共に、中学校・高等学校英語科授業を実践するための必要が基礎・基本を目的論、教材論、能力論、指導論、評価論、授業論の観点から学ぶ。 |
| 到達目標 | ①　中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領・教科書について理解している。②　学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の３つの資質・能力（以下、「３つの資質・能力」という）とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。③　四技能、異文化理解教育の指導について理解し実践できる。④　学校英語教育及び英語科授業実践に関する自分自身の見方・考え方を理解し、表現できる。 |
| 授業の概要 | 伝達重視の英語教育に基づいた四技能の指導と評価、異文化理解教育、などの知識と授業、学習評価の基礎を理解して実践力をつける。 |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | ｢教育実践力を身につけている。｣｢教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。｣を育成する科目として配置している。 |
| 履修条件・注意事項 | 1．問題意識を持って、自ら積極的に授業に参加する。2．ステップ・バイ・ステップで内容を提示するので、指導スキルを身につけていくこと。3．授業に集中すること。 |
| 授業計画 | 第１回：　講義の概要、学校英語教育を取り巻く背景第２回： 学習指導要領（外国語）の目標―中学校学習要領、高等学校指導要領第３回：　コミュニケーション能力の育成第４回：　リスニングの指導と評価第５回：　スピーキング（やり取り・発表）の指導と評価第６回：　リーディングの指導と評価第７回：　ライティングの指導と評価第８回：　英語教育と測定及び評価第９回：　コミュニケーション能力を育成するための教材研究第１０回：　ICTとe-learning第１１回： 技能統合、協同学習、ALTとのティーム・ティーチングについて第１２回：　英語教授法について(1）教授法の概観第１３回：　英語教授法について(2) オーラルメソッド、ナチュラルアプローチなど第１４回：　英語科授業実践力：構想力、展開力、評価（省察）力第１５回：　学習指導案の作成、まとめ定期試験：実施する |
| 学生に対する評価 | 期末試験（70％）、課題ﾚﾎﾟｰﾄ（20％）、授業態度(授業への取り組み状況)（10％） |
| 時間外の学習について | （事前・事後学習として週４時間以上行うこと。）事前学習：1.　事前に読んでくるとよい参考資料を提示するので、 様々な場所（例えば、図書館）で確認しておく。事後学習：1.　授業で配布したプリンティング・マテリィアルの内容を確認することと同時に、 省察カードも読み直す。2.　配付するプリンティング・マテリィアル等を利用して復習を励行する。3．英語教育に関する専門用語をまとめる。4.　声を出して英語を読む練習をするとよい。 |
| テキスト | ・適宜、ﾌﾟﾘﾝﾄ等を配布。・『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』望月昭彦編著　大修館書店・『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説』文部科学省　開隆堂・『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　中学校　外国語』文部科学省　東洋館出版（2020） |
| 参考書・参考資料等 | 高等学校学習指導要領　外国語編（平成30年7月告示　文部科学省）白畑知彦他著（2019）『英語教育用語辞典　第3版』　大修館書店 |
| オフィスアワー | ･ 月曜日4校時 研究室･ メールでも対応します。 |